

## 競技注意事項

1. 本大会は2020年度（公益財団法人）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項により行う。
2. 練習は競技役員への指示に従い、危険防止に努めること。
3. 競技者の招集について
  - (1) 招集方法
    - (ア) 競技者は指定された時間までに1次点呼（○付け）を行い、その後、各競技開始場所に直接集合する。
    - (イ) 1次点呼（○付け）を行わない、または、指定された時間に競技開始場所にいなかった競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。
    - (ウ) 代理人による招集最終確認は原則として認めない。他の種目と兼ねて出場する競技者は、その旨を競技者係に申し出て出場を確認する。
  - (2) 1次点呼（○付け）場所は、競技場第1ゲート付近（100mスタート付近）に設ける。
  - (3) 1次点呼（○付け）終了時刻、及び現地集合時刻はプログラム記載の競技日程の通りとする。
4. 競技場への入退場について
  - (1) 競技場への入場は競技役員への指示に従うこと。競技者以外はトラック、フィールド内に立ち入ることはできない。また、本部前（メインスタンド下の通路）の通行は禁止とする。
  - (2) トラック競技出場者は、フィニッシュ後、下記の要領でスタート地点に戻り退場する。
    - ・直線競技（正走時）→第2ゲートから出て黒マットを通りスタート地点に戻り退場する。  
（逆走時）→第3曲走を通り第1ゲートから出て黒マットを通りスタート地点に戻る。
    - ・400m、800m→そのまま第2ゲートから退場する。
    - ・1500m、3000m、5000m→第1曲走路からバックストレートを通りスタート地点に戻り退場する。
  - (3) フィールド競技出場者の退場については、当該競技役員・マーシャル（場内司令）の指示に従う。
5. ナンバーカードについて
  - (1) ナンバーカードは、必ずユニホームの胸背に確実に付けること。ただし、跳躍競技の競技者は胸・背のいずれかでよい。
  - (2) トラック競技出場者は、各スタート地点において腰ナンバーカードを受け取り、パンツ右側後方につけること。ただし、リレー競技については第4走者のみ付けること。（バックストレートフィニッシュの際は両側につける）借用した腰ナンバーカードは、ゴール後必ず返却すること。
  - (3) 1500m以上の競技（競歩も含む）は、レーンナンバーカードを招集所で受け取り使用する。
6. 走路順・試技順について
  - (1) 予選における走路順・試技順は、プログラム記載通りとする。
  - (2) 決勝進出者を決める場合、同タイム者については判定写真を拡大し、細部（電気計時1/1000）まで読みとり判定する。判定が不可能な場合は救済レーン（第9レーン）を使用するが、対象選手が救済レーン数を上回る場合は、本人か代理人によって抽選する。ただし、800mでは安全上問題のない範囲でスタートからブレイクラインまでのセパレートコースについては、一つのレーンに複数の選手を入れて競技を行う。
7. 競技について
  - (1) 不正スタートをした競技者は1回で失格とする。
  - (2) 「On your marks」あるいは「Set」の合図の後、音声や動作、その他の方法で他の競技者を妨害したとき、1回目はグリーンカードで対応し、スターターより当該選手に注意内容を告知する。同一ラウンドにおいて同様の行為を2回行った場合は遅延行為とみなし、審判長よりイエローカードを示し警告を与える。同一種目において2枚のイエローカードを受けた競技者は当該競技を失格とするが、それ以後の種目の出場を妨げない。
  - (3) 事故防止のため、短距離走ではフィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
  - (4) リレー競走に出場するチームは、その種目の第1組目の現地集合時刻1時間前までにオーダー用紙を競技者係に提出すること。提出時間に遅れたチームは当該種目を棄権したものとみなし処理する。
    - \* 申告したオーダー用紙の変更は、1組目の現地集合時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。
    - \* 招集完了時刻前であっても、一度申告した編成の変更（オーダー用紙の差し替え）は認められない。
    - \* 医務員の判断による変更は出場者のみ認められ、編成（走る順番）の変更は認められない。
  - (5) 5000mWは、男女同時スタートとする。
  - (6) 助力については、競技場内での助力は禁止とするが、スタンドからの助言については競技運営や他の競技者の競技妨げにならない範囲で認める。ビデオ・携帯電話もしくは類似の機器等については、競技者に見せることは可能だが、競技者が操作をしたり、試技場内に持ち込んだりしてはならない。
8. 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りである。

種目	練習	1	2	3	4	5	備考
男子走高跳	1m65	1m70	1m75	1m80	1m85	1m90	以降3cm刻みとする
女子走高跳	決勝 1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	以降3cm刻みとする
男子棒高跳	決勝 2m90	3m00	3m10	3m20	3m30	3m40	以降10cm刻みとする
女子棒高跳	決勝 2m00	2m10	2m20	2m30	2m40	2m50	以降10cm刻みとする
9. 競技に使用する用器具は、全て主催者が用意したものを使わなければならない。やはり検定を受けて通ったものを使用することができる。検定時刻は以下の通りとする。ただし、棒高跳用ポールに限り個人所有のものを使用できる。  
検定時刻： 8：30～9：00 検定場所：第2ゲート用器具庫前
10. スパイクの長さは、9mmをこえてはならない。走高跳、やり投は12mmをこえてはならない。

11. 各チームのテント設営は、テント付属の取扱説明書（マニュアル等）に従って、しっかり固定すること。
12. チームテント設置場所は、高校生は春季大会のスタンド割り振りの場所を基本に設置すること。
13. 本競技会の結果は、掲示しないので、放送と Athlete Ranking で確認すること。
14. コロナウィルス感染拡大の防止にあたり、次の項目を遵守すること。
  - (1) 本競技会は、コロナウィルス感染拡大防止の観点より、無観客での開催とする。
  - (2) 来場者は所定の体調管理チェックシートを大会総務まで提出すること(チームの場合はまとめて提出)  
**(競技会一週間前から記入し、受付時に団体単位で提出する。用紙は札幌陸協 HP よりダウンロードして使用)**
  - (3) 各団体代表者は所属選手の健康状態の把握に努め、異常がある場合は直ちに対応し、主催者に報告すること  
※主催者の指定する待機場所を使用すること
  - (4) 体調がよくない場合には自主的に参加を見合わせる
  - (5) 同居家族や知人に感染が疑われる方がいる場合には自主的に参加を見合わせる
  - (6) 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地方な等への渡航または当該在住者との濃厚な接触者がある場合は自主的に参加を見合わせる
  - (7) 必ずマスクを持参すること（運動時以外はマスクを着用すること）
  - (8) こまめな手洗いや洗顔などを実施すること（主催者が石けんを設置する）
  - (9) 用具（砲丸、ハンマー、やりなど）使用後は手洗いまたはスプレーで除菌をすること
  - (10) ウォーミングアップは個別に行い、「密」をつくらぬよう心掛ける
  - (11) 運動中、痰やつばを吐くことは極力行わないこと。また、ゴミはすべて持ち帰ること
  - (12) どの場面においても、他の競技者、競技役員との距離をできるだけ確保すること
  - (13) 大きな声での会話や応援はしないこと
  - (14) 各チームは待機場所のスペースにゆとりを持たせるよう努め、できる限り密を避けること。
  - (15) テントを使用するチームは密閉状態にならないように留意し、換気を心がけること。(雨天時でも 30 分に 5 分換気)
  - (16) 飲食については周囲の人となるべく距離をとって、対面を避け、会話を控えること
  - (17) タオルの共用、ドリンクの回し飲みはしないこと
  - (18) 団体代表者は、選手の競技場滞在時間が短くなるよう配慮すること
  - (19) 競技会終了後 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無などを報告すること
  - (20) 感染予防のために主催者が決めた他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと。

参加者・審判員の皆様へ 競技会当日、駐車場は第一または第二駐車場をご利用ください。  
競技場前への駐車は主催者発行の駐車証が必要です。